



復刊第144号  
題字 吉岡弥生

# 巻頭言

副会長 白浜光子

秋冷の候、会員の皆様には診療に各方面の活動に毎日お忙しい中、活躍のことと存じ上げます。今年には戦後五十年の節目を迎え、年初から多事多難目まぐるしいばかりの世相の変わりが相次ぎました。1月17日朝勃発した阪神大震災に際し、日本女医学会は急処対応策を講じ、まず全国の会員に寄付を呼びかけ、2月初めより二度にわたって各避難所への巡回医療奉仕活動を実施致しました。4月に入りまとまった献金をお見舞として兵庫県支部に持参し、同支部では罹災会員のうち半壊全壊の程度に応じて分配し、非常に感謝されている旨の礼状が支部長宮地民子先生より佐藤会長宛寄せられています。これらの対策がスムーズに実施できたのも、会員諸先生の温かいご厚志のおかげと厚くお礼申し上げます。まだ震災の復興も覚束ない3月に

は地下鉄サリン事件という未曾有の無差別テロが発生し、ついで銃砲による殺傷事件の増加などいよいよ世紀末の様相を深めて来ております。8月には終戦五十年を迎えて広島、長崎の原爆記念碑の前に世界唯一の被爆国として、全人類の名において核の廃絶を願う日本国民の熱い祈りが捧げられました。しかし9月初頭にはフランスが世界中の反対を押し切つて南太平洋のムルロア環礁で核実験を強行するという現実があります。一国の利害を超え、地球環境及び生態系の安全を図らねば人類の将来が危ないという危惧に駆られます。同時に北京で開幕された国連世界女性会議及びNGOフォーラムにおいても、女性の地位の向上、妊娠、出産の選択の自由などテーマは盛りだくさんですが実施となると問題の多い国も多く、日本でも男女平等が叫

ばれて久しいのですが、家庭や職場での差別及び負担が平等となり、社会の重要な地位も半分は女性が占めるという時代が到来するかどうか、徐々に動きつつある男性社会の変貌に望みを托し、あわせて女性自身の奮起が望まれます。女医は早くから比較的男女格差の少ない職業として明治以来多くの先輩たちが開拓に奮闘され、社会の指導的職業としては現在の他の分野に比しかなり多数を占めて来ております。今年1月の会誌に佐藤会長は、女医が女性の感性を活かし、また女性としての特性を發揮して医療に従事することにより現在の硬直した医師と患者の関係を变えることができるのではと提唱しておられます。日本は戦後五十年間平和を維持してその間経済の浮沈はあるにしろ、ともかく現在の豊かな時代を築きあげて来ました。今も世界のあちこちで戦火に追われて逃げ惑い、或は傷つき、死に至る人もいると思うと、平和の有難さ、尊さを痛感いたします。

その中で長寿年齢も世界一となり、近年とみに高齢者問題が提起され、最近では介護保険についても種々検討されています。既に皆様の中にもいろいろな施設において、また自宅療養に接し、医師として高齢者のために献身されている向きも多くおられます。女医には老人のために病気をみならず、介護及び生活のあらゆる面でよき理解者となり高齢者の生きる道を支えて行くという大きな

## 目次

|                         |            |
|-------------------------|------------|
| 巻頭言.....                | 白浜 光子 (1)  |
| 〈第9回ワークショップ〉女医の国際貢献—その2 |            |
| ワークショップを開催して.....       | 坂本 雅子 (2)  |
| わが国の国際保健医療協力力の現状.....   | 小早川隆敏 (3)  |
| 国際保健医療協力力の経験から.....     | 大原久美子 (3)  |
| 〈第14回学術研究助成研究経過報告〉      |            |
| セカンドメッセンジャーレベルからみた      |            |
| てんかん原性の研究.....          | 橋井美奈子 (4)  |
| ラット小脳におけるcGMP生成に        |            |
| 対する麻酔薬の抑制効果.....        | 中村 久美 (4)  |
| 生体における細菌性スーパー抗原の毒性発現    |            |
| 機序と、免疫寛容の生体防衛的役割.....   | 藤巻わかえ (5)  |
| 神経芽腫におけるアポトーシス誘導.....   | 岩川真由美 (6)  |
| 偽性副甲状腺機能低下症における         |            |
| Gs蛋白異常についての検討.....      | 武田 京子 (7)  |
| 糸球体腎炎の発症・進展における         |            |
| サイトカインの作用.....          | 池田三知代 (8)  |
| 中国女医師協会成立大会に出席して.....   | 山崎 倫子 (9)  |
| 中国女医師協会成立大会に参加して.....   | 大坪 公子 (9)  |
| 荻野吟子賞を頂いて.....          | 山田多佳子 (9)  |
| 〈学術講演抄録〉                |            |
| 日常診療にみられる不整脈の診断と治療の進歩   |            |
| .....                   | 笠貫 宏 (10)  |
| ニュージーランド女医学会を訪問して.....  | 橋本 葉子 (10) |
| 〈私の大学〉 千葉大学医学部.....     | 安藤 道子 (12) |
| 〈支部だより〉                 |            |
| 第39回青森支部総会を開催して.....    | 黒田 迪子 (12) |
| 神奈川支部総会を開催して.....       | 森田 和子 (13) |
| ○第16回学術研究助成のご案内.....    |            |
| ○第41回定時総会のご案内.....      |            |
| 理事会議事録.....             |            |
| 会員動静.....               |            |
| 編集後記.....               |            |



「南北問題」は、地球環境問題とも複雑に絡み合いながら、人類社会に



東京女子医大国際環境・熱帯医学教室  
小早川隆敏

### わが国の国際保健医療協力の現状

懇親会では本部と地元との交流、世帯を越えた交流などいろいろな交流ができました。特に若い方にとっては、日頃会えない経験と実績をもった先生方と親しく話せる大変貴重な機会、大きな成果だったと思えます。

今回はまた、地元の若い先生方の働きも頼もしい成果でした。これを

「南北問題」は、地球環境問題とも複雑に絡み合いながら、人類社会にとつて最も重要な課題になっている。南北間の経済格差は、未だに縮まらず、南側の爆発的な人口増大は、自らの貧困をより一層深刻なものにし、地球規模での環境問題の解決にも暗い影を落としている。この「南北問題」への先進国の責務として南側世界への経済・技術援助が行われているが、その中でも保健医療協力の重要性は年々たかくなっている。

演者は、本職に兼任するまで、国際協力事業団(JICA: Japan International Cooperation Agency) 医療協力部長の任にあり、わが国の行う官ベースによる、「二国間医療協力の実施責任者であったことから、南北問題の中でわが国の位置付け、現在の医療協力の実施形態及びそれに対する女性医師の参加、貢献の実

状、さらにそれに対する将来的な期待を述べる。

わが国の官ベースによる二国間技術協力は、国際協力事業団が一元的に実施の責任を負っており、社会開発、農業開発、林業水産開発、鉱工業開発、医療協力を協力の分野とし、その実施形態としては「研修員の受け入れ」「専門家の派遣」「機材の供与」を単独、或は組合せて行っている。なお、いずれの協力分野においても三者の組合せで行う、いわゆる「プロジェクト方式技術協力」が事業の主体となっている。

医療協力の「プロジェクト方式技術協力」の分野としては、エジプト、カイロ大学小児病院、女子医大が単独支援機関になっているコスタリカ、国胃がん早期診断等の「臨床協力」、ガーナ野口記念医学研究所、タイ国立衛生研究所、中国天津医薬品検査技術等の「医学研究・検査協力」、中国、中日医学教育センター、「ホンデユラス、看護教育強化等の「保健医療関連人材養成協力」、中国ポリオ対策、ネパール、結核対策等の「感染症防遏等公衆衛生協力」、インドネシア、生ワクチン製造基盤技術、トルコ、生物製剤品質管理等「ワクチン等生物製剤製造・形質管理協力」、さらにケニア人口教育促進、メキシコ家族計画、母子保健等の「人口家族計画協力」がある。なお、おおむね半数のプロジェクトは無償資金協力により施設の建設、大型機材の供与を受けている。また原則として、五

年間をその協力期間とするが延長される場合もある。現在、既に少なからぬ女性医師が、JICAの行うプロジェクト専門家、青年海外協力隊員、さらに国連機関職員やボランティア専門家として活躍をしており、国際保健医療協力の活動希望者は顕著に増加の傾向にある。ちなみにわが教室にもJICA専門家として三年間中米ホンジュラス政府保健アドバイザーとして活躍の経験者及び「国境なき医師団」で戦乱のボスニア・ヘルツェゴビナ産婦人科病院で医療活動に約一年間従事した者のおおの一名の女性医師が在籍している。加えて昨今の国際的趨勢であり、わが国の医療協力の事業にも同様の傾

向がみられるのは、臨床協力、なかなか、無償援助で、大規模な先端的医療施設、機材を供与し、それに對し技術協力をを行う方式はかつて、対象国の貧富の差の拡大を助長するとして減じており、逆に基本的人間ニーズ(BHN・ベイスニック、ヒューマンニーズ)にもとづく人材養成、感染症対策、母子保健対策、健康教育等をプライマリーヘルスケアの枠組みの中で行う協力が増加している。

### 国際保健医療協力の経験から

大原久美子

東京女子医大国際環境・熱帯医学教室



私は、医学部卒業後脳神経外科の道に進み治療医学に邁進していましたが、ある機会に、先進国と開発途上国の人々の健康に許しがたい隔たりがあること、かつその大半が安価でシンプルな予防を中心とする方法によって防ぎ得るということを知ることがあり、悩んだ末、医師になる機会があり、悩んだ末、医師になって八年目で国際保健の分野を一心からやり直すことに決めました。

### 第9回ワークショップ「女医の国際貢献」その2

### ワークショップを開催して

福岡支部 坂本雅子



佐藤千代子会長の講演

平成7年6月24日、第9回日本女医会ワークショップ「女医の国際貢献」その2」を福岡支部で開催させていただきました。福岡支部は従来、具体的な活動は余り活発ではありませんでした。しかし、医師国家試験では女性の合格者数が年々増加し、日本の医療も女性なしでは考えられない現状です。支部でもすこし具体的な活動が必要ではないか、とりあ

えず親睦を深め、研修などを企画することから始めてはどうかということと、平成6年7月9日、第1回の総会、懇親会を開き、九州大学小児外科教授の水田祥代先生を新支部長に、旧支部長の福岡市助役の加藤空子先生を顧問に、新しい出発をいたしました。

今回のワークショップは、その後の福岡支部での初めての仕事となりました。東京の第7回ワークショップ「飛びたとう、世界へ」女医の国際貢献」を聴いて、ぜひこのような講演を九州の若い先生方にも聴いてほしいとおもったのも一つのきっかけでした。また、この機会に本部理事会を福岡市で開いていただき、来年福岡支部で開催を予定しています

「保健医療国際協力の経験から」と題して、同大学助手の大原久美子先生がお話くださいました。平敷先生のたくみな司会進行もあって、興味深いテーマがさらに自分にもじかに課題としての認識で受け取られたように思います。出席者は理事の先生方二十五名も含んで総数九十三名。この内、学生十二名でした。

何より苦労したのは、参加者を集めたうえに、医師会もより県下の九州大学、福岡大学、久留米大学、産業医科大学の医局、学生、同窓会などあらゆる所にパンフレットを配り、支部会員の協力を得て個人的なお誘いもしました。今後の女医会の活動のためには、幅広い世代の参加は、不可欠です。多くの方の参加が一番の課題だと身にしみました。

福岡支部の福岡市健康づくりセンターで開かれ、充実した内容もさることながら前助役・現福岡市顧問の加藤空子先生はじめ、九州大学医学部の水田祥代教授、福岡市健康財団専務理事・坂本雅子先生等々枚挙にいとまない福岡の錚々たる女医さん

たちの活躍ぶりに前述の女性の権利と地位の向上という理想を福岡は早や先取りし、実現しておられるのを見て見張る思いでありました。健康づくりセンター「あいらふ」はすべてこれら女医さんたちの発想と実行力により建設された日本唯一のユニークな施設とすることで、福岡へ行かれた際は是非見学をお勧めします。

ちなみに福岡県支部は来年の総会の開催も引受けて下さいました。平成8年5月25日福岡市で日本女医会総会開催の予定でございます。

日本女医会が三年前から積極的に取り組んでおりますエイズ撲滅に向

つても(本年2月高崎市、同10月郡山市において公開講演会開催、エイズ劇画小冊子も継続頒布中)これからも一層運動の輪を拡げたいと丸茂常任理事以下事業部一同頑張っておりますので、この上とも協力のことよろしくお願い申し上げます。

最後に来年3月ニュージーランドのオークランドで、国際女医会副会長橋本葉子教授主宰の国際女医会西太平洋地域会議が開催されます。新進気鋭の若い会員諸氏のヤングフォーラムへの応募ならびに諸先生のご参加を切に期待申し上げる次第でございます。

も神戸と同じく地震による傷手から立ち直り、お互いに力づけ合いながら元気に活躍しておられる様子を、日本女医会はこの支部の皆様によつて支えられていることを何より嬉しく感じました。6月末には学術部主催の第2回「女医の国際貢献」ワークショップが水田祥代福岡県支部長により福岡市健康づくりセンターで開催され、充実した内容もさることながら前助役・現福岡市顧問の加藤空子先生はじめ、九州大学医学部の水田祥代教授、福岡市健康財団専務理事・坂本雅子先生等々枚挙にいとまない福岡の錚々たる女医さん

も神戸と同じく地震による傷手から立ち直り、お互いに力づけ合いながら元気に活躍しておられる様子を、日本女医会はこの支部の皆様によつて支えられていることを何より嬉しく感じました。6月末には学術部主催の第2回「女医の国際貢献」ワークショップが水田祥代福岡県支部長により福岡市健康づくりセンターで開催され、充実した内容もさることながら前助役・現福岡市顧問の加藤空子先生はじめ、九州大学医学部の水田祥代教授、福岡市健康財団専務理事・坂本雅子先生等々枚挙にいとまない福岡の錚々たる女医さん

も神戸と同じく地震による傷手から立ち直り、お互いに力づけ合いながら元気に活躍しておられる様子を、日本女医会はこの支部の皆様によつて支えられていることを何より嬉しく感じました。6月末には学術部主催の第2回「女医の国際貢献」ワークショップが水田祥代福岡県支部長により福岡市健康づくりセンターで開催され、充実した内容もさることながら前助役・現福岡市顧問の加藤空子先生はじめ、九州大学医学部の水田祥代教授、福岡市健康財団専務理事・坂本雅子先生等々枚挙にいとまない福岡の錚々たる女医さん

も神戸と同じく地震による傷手から立ち直り、お互いに力づけ合いながら元気に活躍しておられる様子を、日本女医会はこの支部の皆様によつて支えられていることを何より嬉しく感じました。6月末には学術部主催の第2回「女医の国際貢献」ワークショップが水田祥代福岡県支部長により福岡市健康づくりセンターで開催され、充実した内容もさることながら前助役・現福岡市顧問の加藤空子先生はじめ、九州大学医学部の水田祥代教授、福岡市健康財団専務理事・坂本雅子先生等々枚挙にいとまない福岡の錚々たる女医さん

も神戸と同じく地震による傷手から立ち直り、お互いに力づけ合いながら元気に活躍しておられる様子を、日本女医会はこの支部の皆様によつて支えられていることを何より嬉しく感じました。6月末には学術部主催の第2回「女医の国際貢献」ワークショップが水田祥代福岡県支部長により福岡市健康づくりセンターで開催され、充実した内容もさることながら前助役・現福岡市顧問の加藤空子先生はじめ、九州大学医学部の水田祥代教授、福岡市健康財団専務理事・坂本雅子先生等々枚挙にいとまない福岡の錚々たる女医さん



のビタミンAが子供の一生の盲目を防ぐというようなことは、先進国では想像もできないような現実です。このような問題に対し、われわれができることはさまざまですが、実際に自分が現地に入って現地の人

### 第14回学術研究助成研究経過報告

#### セカンドメッセンジャーレベルからみたがん原性の研究

—イノシトールリン酸による細胞内Ca<sup>2+</sup>流入機構の解明

石川支部 橋井美奈子

ras遺伝子は低分子量G蛋白質の代表的なものの一つで、細胞の活動や増殖にさいして重要なシグナル伝達役を果たしています。ras遺伝子の突然変異は、腫瘍、大腸がんをはじめとしてヒトのガン全体の約30%にみられるとされています。正常ras遺伝子産物のN末端から12、または61番目に点突然変異がおこり一つのアミノ酸が置換するras p21蛋白質(分子量21kDa)は、細胞内での活性化した状態ではシグナルを出しつづけることになりません。変異ras遺伝子を導入したトランスフォーメーションNIH/3T3線維芽細胞(DT細胞)でもガン化し、親細胞と異なる性質になります。われわれはこのDT細胞における、ブラジキニンレセプターを介する生理学的変化につ

つ、私もこの世界で一生仕事を続けていきたいと思っておりますし、そんな仲間が一人でも増えてくれれば大変うれしく思う次第です。

性化される持続的な過分極性Ca<sup>2+</sup>流入によって維持されており、IP<sub>3</sub>がセカンドメッセンジャーとなりうる可能性が示唆される。

とも過分極側で増強するCa<sup>2+</sup>流入経路があり、rasトランスフォーメーションとブラジキニン刺激が加わると著しく増強する。  
(3) IP<sub>3</sub>作動性Ca<sup>2+</sup>流入・DT細胞ではイノシトール4リン酸(IP<sub>4</sub>)注入は、持続的なCa<sup>2+</sup>増加を示した。NIH/3T3細胞にはともともIP<sub>3</sub>によって誘起されるCa<sup>2+</sup>流入経路があり、rasがその経路を持続的に活性化することが考えられる。以上より、DT細胞でのCa<sup>2+</sup>オシレーションは、ras遺伝子とブラジキニンにより活

#### ラット小脳におけるcGMP生成に対する麻酔薬の抑制効果

京都支部 中村久美

一酸化窒素(NO) - cyclic GMP (cGMP)系は、血管では内皮依存性弛緩反応を生じさせ、神経系においては細胞間・細胞内情報伝達に関与している。たとえば、幼若ラット小脳のN-メチル-D-アスパラギン酸(NMDA)受容体にNMDAが結合すると、NO合成酵素が活性化され、NOが生成される。生成されたNOはguanylate cyclaseを活性化させ、cGMP生成量を増加させる。多くの麻酔薬は血管の内皮依存性弛緩反応

を抑制するが、麻酔薬は血管におけるのと同様の機序で神経系のNO-cGMP系も抑制し、この作用により興奮性アミンによる神経伝達を抑制しているのではないだろうか。上記の仮説を検証するため本研究を行った。

なお、D-アスパラギン酸(D-Asp)は、NMDA受容体だけでなく他の興奮性アミン受容体にも結合し、NMDAよりも非特異的に作用するが、結果的にはやはりNO合成酵素を活性化してNO生成量を増加させる。一方、ニトログリセリン(SNP)は細胞内でNO合成酵素を介さずNOを遊離する。そこで、麻酔薬の作用点を明らかにするため、D-Asp及びSNPで刺激した時のcGMP生成に及ぼす麻酔薬の影響も検討した。

実験方法は、生後七日のラットの脳切片(厚さ0.4mm)を、5%二酸化炭素-95%酸素で通気した37°Cリソゲル液中に浸漬し、麻酔薬非存在下(対照)および存在下、NMDA(0.1mM)、D-Asp(1mM)またはSNP(0.1mM)で刺激し、RIA法でcGMP含量を測定した。

実験の結果、チオペンタール(0.1mM)はNMDA、D-Asp、およびSNP投与によるcGMP生成をいずれも強く抑制した(1)。即ち、チオペンタールはNO合成を阻害するのではなく、あるいは阻害するだけではなく、guanylate cyclase活性を抑制することによりcGMP生成を抑制したことが強く示唆された。一方、ケタミ

ン(0.3mM)とイソフルラン(2%)は、NMDAによるcGMP生成は抑制したが、D-AspとSNPによるものは抑制しなかった。即ち、ケタミンとイソフルランは、NMDA受容体、あるいは受容体に連関した機構に抑制的に作用することが示唆された。

ハロタン(2%)はNMDA、D-AspによるcGMP生成は強く抑制したが、SNP刺激のcGMP含量は変化をせなかつた(2)。以上より、ハロタンはNO合成酵素に対し抑制効果を有

#### 生体における細菌性スーパー抗原の毒性発現機序と、免疫寛容の生体防衛的役割

東女医内支部 藤巻わかえ

平成5年度学術研究助成により行いました研究について報告させていただきます。

はじめに

ブドウ球菌由来の外毒素(TSS T-1, staphylococcal enterotoxin A-E)(SEA-SEE)などは、重篤な急性全身性感染症であるtoxic shock syndromeの原因外毒素であり、スーパー抗原とよばれている。これらは通常抗原と異なり、T細胞レセプターを介してV $\beta$ 選択的に莫大な数のT細胞を活性化する。また活性化後に免疫寛容を誘導し、二相性の反応を示す。生体への毒性は、T細胞の過剰反応とそれに伴うサイトカイン

するか、あるいは興奮性アミンの受容体に非特異的抑制効果を有することが示唆された。なお、静脈麻酔薬のプロポフォールは同じ静脈麻酔薬のチオペンタールに比して抑制効果が弱く、ミタゾラムは抑制効果を示さなかつた。

論文及び学会発表

- (1) Anesth Analg 79: 921-6, 1994
- (2) アメリカ麻酔学会1995年年次総会 (Atlanta, Georgia, USA)発表予定

産生に関連していることがわかってきているが、詳細は明かではない。本研究では、生体レベルにおける毒性発現機序と、免疫寛容の生体防衛的役割について検討した。

方法及び結果

スーパー抗原はSEAを用いた。D-ガラクトサミン(代謝阻害剤)を前投与したマウス(C57BL/6)ではSEA 20 $\mu$ gにて100%致死効果が得られたので、これをSEAチャレンジ量とした。SEA致死作用に関与するT細胞サブセットを検討するため、抗CD4抗体あるいは抗CD8抗体を前投与したマウスにSEAチャレンジしたと

### 第16回学術研究助成のご案内

会員の学術研究に対し、助成事業を行っております。希望者がありましたら応募要項にしたがって、事務局あて申請くださるようお願いいたします。

#### 一、助成の趣旨

医学分野の発展向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

#### 二、助成金額

一件 三十五万円(一五件)

#### 三、申込手続

- (1) 応募資格  
入会継続三年以上経過した日本女医学会会員で個人、またはグループ(ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること)
- (2) 助成期間  
一年を原則とする。同一人が重ねて申請する場合は、三年以上の間隔を置く。
- (3) 応募方法  
本会所定の用紙に、黒インキまたはワープロで記入。一通を提出(用紙は事務局へ請求のこと)
- (4) 申込期間  
平成七年十二月二十五日(月)(必着)
- (5) 選考および発表方法  
選考委員会において選考の上、平成八年三月開催の日本女医学会理事会对して決定し、申請者あて通知する。
- (6) 助成金の贈呈  
平成八年五月開催の日本女医学会総会の席上。
- (7) 受賞者の本会に対する義務  
平成九年三月末日までに研究経過報告(B5原稿用紙三枚)と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。
- (8) 送付先  
日本女医学会本部 〒150 東京都渋谷区渋谷二一八七 電話 〇三三四九八〇五七

ころ、前者は全例生存したが、後者は全例死亡。さらにSEA反応性のVβ3とVβ11の陽性細胞を抗体で除去したマウスもSEAの致死作用を免れたことから、生体内ではSEA反応性VβのCD4+T細胞が致死作用に関与していると考えられた。ではCD8+T細胞はSEAに全く反応していないのか?この点を明らかにするため、CD4除去マウスでSEA反応性Vβが増加するか検討した結果、CD8除去マウスと同等の増加がみられ、CD8+T細胞もSEAに反応していると考えられた。SEA反応性のCD8+T細胞の役割については、今後の課題である。

止されなかった。今後はTNF受容体の発現、あるいはTNFαやIFN-γ以外のサイトカインも考慮すべきかもしれない。次に免疫寛容の生体防衛的役割の有無を検討するため、少量のSEA前投与で免疫寛容を誘導してからSEAチャレンジを行い致死効果をみた。その結果、免疫寛容誘導マウスは致死作用を免れ、血清中TNFαも低レベルだった。したがって、免疫寛容の成立によりT細胞の過剰反応が終息に向い生体が防衛されると考えられた。

性ショックは、生体内CD4+T細胞を介する過剰免疫反応によるものであり、TNFαが致死作用に関与する主たるサイトカインであることがわかった。また、免疫寛容は生体防衛機構として重要であると思われる。

### 神経芽腫におけるアポトーシス誘導

結語

台東支部 岩川真由美

致死作用に関連するサイトカインとしてはTNFαが有力であり、我々も抗TNFα抗体前投与でSEA致死作用が阻止されることを確認した。このマウスでは血清中TNFαはチャレンジ後も抑制され、IL-2は対照マウスと同様増した。このことからCD4除去マウスとCD8除去マウスにおける致死作用の相違もTNFα産生の違いによると考えてSEAチャレンジ後の血清中TNFαの推移を検討したところ、予想に反して両群マウスで増加し有意差を認めなかった。ショックに関係するサイトカインとして、TNFαの他にはIFN-γが考えられる。実際、他のスーパージンによる致死作用が、抗TNFα抗体のほか抗IFN-γ抗体によっても阻止された例がある。しかし、SEA致死作用は抗IFN-γ抗体によって阻

止されなかった。今後はTNF受容体の発現、あるいはTNFαやIFN-γ以外のサイトカインも考慮すべきかもしれない。次に免疫寛容の生体防衛的役割の有無を検討するため、少量のSEA前投与で免疫寛容を誘導してからSEAチャレンジを行い致死効果をみた。その結果、免疫寛容誘導マウスは致死作用を免れ、血清中TNFαも低レベルだった。したがって、免疫寛容の成立によりT細胞の過剰反応が終息に向い生体が防衛されると考えられた。

本研究会内容については、第24回日本免疫学会総会および第5回日本生体防衛学会で発表し、論文作成中です。これからの研究を進展させるべく頑張りしたいと思います。研究助成をいただきましたこと、本当にありがとうございました。

研究目的  
神経芽腫におけるアポトーシスの調節機構を解明し、この死の誘導シグナルを臨床における治療法の開発に発展させることが、本研究の目的である。

研究方法  
1 マウス神経芽腫実験モデルにおけるアポトーシスの出現  
材料Ⅱ8週齢雌性A/Jマウス  
マウス神経芽腫C-1300第  
六世代

方法Ⅰ①C-1300腫瘍細胞の単細胞浮遊液を作成し、マウス尾静脈より静注移植する。  
②肝、大腿骨髄細胞を摘出し、ホルマリン固定とする。  
③パラフィン包埋標本薄切面にTunnel法にてDNA断面を染色する。  
④パラフィン包埋標本薄切面でPCNA染色を行う。  
⑤パラフィン包埋標本薄切面でLewis Y染色を行う。

2 肝切除術によるマウス肝再生機転の解明  
材料Ⅱ8週齢雌性A/Jマウス  
肝切除Ⅱネンブタール麻酔下  
腹部小切開を加え、30%hepatectomyを施行する。  
肝再生Ⅱ経時的に犠死後、肝を摘出し肝重量を測定する。

マウス神経芽腫C-1300第  
六世代  
方法Ⅰ①C-1300腫瘍細胞の単細胞浮遊液を作成し、マウス尾静脈より静注移植する。  
②肝切除Ⅱネンブタール麻酔下に加えて、30%hepatectomyを施行する。  
③肝転移を摘出し、ホルマリン固定とする。  
④パラフィン包埋標本薄切面にTunnel法にてDNA断

端を染色する。  
⑤パラフィン包埋標本薄切面でPCNA染色を行う。  
⑥パラフィン包埋標本薄切面でLewis Y染色を行う。  
⑦アポトーシスと思われる細胞を電顕にて染色体断片化を確認する。

2 肝切除後の肝再生は切除後四十一日におこった。  
3 肝再生時期に肝転移は抑制されアポトーシスに陥った細胞を認めずなわち、肝再生という機転により、アポトーシスは誘導されるが、アポトーシス自体は腫瘍増殖にも治癒にも関与することが判明した。

兄には、電解質、内分泌学的異常なく、母には皮下骨腫、腎結石を認めました。患者およびその母、兄の末梢血よりDNAを抽出し、各エクソンをPCR法にて増幅し、Denaturing gradient gel electrophoresis (DGGE)法を行い、異常の認められたエクソンの塩基配列を検討いたしました。

さらには治療に、少しでもお役に立つことができたらと願っております。今後とも、諸先生方のご教示、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Histocompatibility Complex(MHC)抗原および接着分子(Intercellular Adhesion Molecule-1(ICAM-1))の発現に対する各種サイトカインの作用について検討した。また、最近では、炎症局所において一酸化窒素(NO)がサイトカイン刺激の作用物質としての役割を持っている可能性が報告されておりこの点についても検討を加えた。

### 偽性副甲状腺機能低下症におけるGs蛋白異常についての検討

高知支部 武田京子

第39回日本女医学会定時総会におきまして、平成6年度第14回日本女医学会学術研究助成をいただき、誠に有難うございました。

遺伝子は、染色体20q13.2-q13.3に局在し、13のエクソンからなります。最近 Albricht hereditary osteodystrophyのGs遺伝子の異常と病因との関係が報告されましたが、本邦では未だその報告を見ていません。今回、私たちは偽性副甲状腺機能低下症の一例を経験しましたので、患者及びその家族における本遺伝子の異常について検討をいたしました。

その結果、患者および母親は対立遺伝子の一方のGs遺伝子のエクソン7に4bp(GACT)の欠損を有するヘテロ接合体であることが判明いたしました。多臓器ホルモン不応症を示した本患者は、偽性副甲状腺機能低下症I型と診断されますが、本患者では、異常alleleの発現が少ないか、もし発現しているGs活性が低く、全体として機能し得るGs活性の低下が本症の病因の一因であると考えられました。しかし、皮下骨腫を認めながら多臓器ホルモン不応症を認めなかった母親は、偽性偽性副甲状腺機能低下症と診断されますが、同じ遺伝子変異を有しながら、低Ca血症を示さなかった原因は明らかではありませんでした。

糸球体腎炎の発症および進展には、免疫学的な異常、凝固因子、糖・脂質の代謝異常、血圧の生理的作用などさまざまな因子が関与しており、中でもサイトカインの作用を含む免疫学的な機序は重要な役割を占めています。メサンギウム細胞に対するサイトカインの作用としては、これまでに細胞増殖の調節、細胞外基質の産生に関する検討は進んでいるが、メサンギウム細胞の膜抗原に対するサイトカインの作用については充分解明されていない。今回、私どもは、メサンギウム細胞におけるMajor

メサンギウム細胞は、ラットの腎臓からメッシュを用いたstaining法にて単離し、20%の牛胎児血清を加えたRPMI1640にて培養し、第6継

### 公開講演会開催依頼について

各支部におかれまして公開講演会を開催して頂き、各地の実情に合ったテーマ、演者、日程を組んで、公衆衛生活動にご参加くださいますよう、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。各支部から開催のお申し出があれば、資金、演者派遣などご希望に応じて、協力させていただきます。

事業部

### 糸球体腎炎の発症・進展におけるサイトカインの作用

栃木支部 池田三知代



代以降を実験に用いた。

(1) ICAM-1は、細胞同士を接着させる接着分子の一つとして血管内皮細胞と好中球の接着や、炎症巣における白血球浸潤に重要な役割を担っている。腎炎においてもメサンギウム領域においてICAM-1の発現が認められており、腎炎の発症への関与が推測される。私どもの検討では、interleukin 1 (IL-1) がメサンギウム細胞におけるICAM-1の発現を24時間をピークに増強することをELISA法、およびflow cytometryにて認めており、さらにIL-1に由来するICAM-1の発現は、ICAM-1のmRNAsの発現増強を介して起こることをNorthern blot法にて明らかにした。一方、IL-1同様腎炎で発現が増

強することが知られているIL-6ではメサンギウム細胞におけるICAM-1の発現に影響を示さなかった。

(2) MHCは、腎炎における役割については明らかではないが、MHC class 1欠損マウスでは、ルーブス腎炎の発症が抑えられていたとの報告もみられ何らかの関与が推測されている。今回の検討では、メサンギウム細胞におけるMHC class 1の発現は、interferon- $\gamma$  (IFN- $\gamma$ )、IL-1, tumor necrosis factor- $\alpha$  (TNF- $\alpha$ )にて発現が増強されることをELISA法、およびflow cytometryにて明らかにした。また、IL-6はMHC class 1の発現にも影響を示さなかった。

(3) NOは、当初血管内皮由来の弛緩因子として注目されていたが、その後細胞の増殖抑制などさまざまな生物活性を有することが示され、またマクロファージ型NOはサイトカインにより産生が誘導されること

が知られている。私どもの検討ではメサンギウム細胞においても、他の細胞における報告同様、IL-1がNOの産生を増強させていること、またその機序としてIL-1がマクロファージ型NOを誘導する酵素(inducible NO synthase)のmRNAの発現を増強することを認めた。さらに、産生されたNOがメサンギウム細胞におけるICAM-1の発現を転写レベルで抑制することを明らかにした。

以上、サイトカインは、メサンギウム細胞において膜抗原の発現やZ

Oの産生を介して腎炎の発症・進展に深く関与する可能性が明らかとなった。今後は、さらにin vivoにおけるサイトカイン、NOの作用について検討を加えていく方針である。

文献

(1) Cytokine (submission).  
 (2) Michiyo Ikeda et al.: Nitric Oxide synthesis in rat mesangial cells induced by cytokines. Cytokine 6: 602-607, 1994.  
 (3) Am. J. Physiology (submission).

もっとも驚ろいた事は、その大宴会が北京の朝陽丹肝病研究所なる製薬会社のスポンサーによるものであったことだ。

翌6日は来賓を多く迎えた正式の大会で、江澤民主席をはじめ政府要人らから贈られた直筆の書(詩文が)披露され、衛生部長、次長、中日友好病院々長他、関係各氏の祝詞が続き、常任理事に選ばれた女医たちの紹介がありました。私は前もって用意していた挨拶の一部を中国語で行い、大坪先生は、短歌によるお祝いを披露なさり、これが中国語に訳され、大かっさいでした。そのうち全員での昼食会、言葉が通じないにもかかわらず十分に味わいました。

滞在中、中日友好病院見学、中医药大学を訪問し、かねてから興味のある気功研究所を訪ねました。李曉明教授はイタリアのボローニヤ大学でも教えておられて、ヨーロッパでは有名な方だそうですが、その李先生にいろいろ質問したり、診察もしていただきました。また老人ホームも見学、一部の特権階級だけと思えますが、個室でなかなか快適そうにできていて南面を習ったり、書を練習したり、ペランダでいろいろ草花を育てている人々たちを見受けました。最高齢一〇五歳の女性も実にかくしやくとしていて、帰るとき見送ってくれました。

最後の半日は天津市を訪ねました。僅か二時間半のドライブ、ハイウェイは私たちの車だけで、両側のポプラ

### 中国女医師協会成立大会に出席して

名誉会長 山崎倫子

先般中国女医師協会成立に当り7月5、6日の成立大会へご招待がありました。前々からの経緯上日本女医学会から、山崎倫子と大坪公子理事の二人が友人の立場で出席してきました。

かねてより中日医学交流協会から女医学会との交流、組織作り、国際女医学会への加盟などについて相談を受

けていましたが、二年前西太平洋地域国際会議を京都で開催するに当り初めて中華人民共和国から三名の女医を招待しました。ご記憶の方もあるかと存じますが、台湾女医学会、中国女医学会を巡って少々むずかしい問題があり、国際本部、会長、副会長、台湾女医学会当事者たちとの交渉の結果、互いに了承して京都の国際会議

に出席し大変喜んで帰国しました。その状況は中国人民日報にも何度か掲載されました。

何界生衛生部次長(中国では厚生省次官に当る)は国際女医学会への加盟を切望して帰国後直ちに組織作りを始めた模様でした。そして着々進行中との連絡を聞いていましたが、二年余に渉る努力の甲斐あって女医師協会は遂に中国衛生部の批准を受け民政部にも登録され、正式に中国女医師協会が誕生したのでした。

成立大会には関係各方面に招待された由でしたが台湾女医学会は欠席、国際女医学会及び同事務局局長は8月下旬から、UN世界女性会議に出席するのでその折に訪問すること

で当日は欠席されました。

7月5日は中国人女医たちだけの総会で中国全土を網羅する各地方から選出の百五十名(各省から二名ずつ選出される)の理事、その中で役員を選出やら担当が決められ常務理事五十五名、会長は李先念元副主席の未亡人、林佳楣女史小児科医、名誉会長、陳慕華、何界生、嚴仁英學術会議会長の三名、他に諸役員が紹介されました。

大会のあとの懇親会が人民大会堂で開かれ、われわれ二人も来賓として招待されました。

会場には約二百名がところ狭しと相集い大変な賑わいでした。独唱、合唱、京劇の歌唱、剣舞などなど、

もつとも驚ろいた事は、その大宴会が北京の朝陽丹肝病研究所なる製薬会社のスポンサーによるものであったことだ。

翌6日は来賓を多く迎えた正式の大会で、江澤民主席をはじめ政府要人らから贈られた直筆の書(詩文が)披露され、衛生部長、次長、中日友好病院々長他、関係各氏の祝詞が続き、常任理事に選ばれた女医たちの紹介がありました。私は前もって用意していた挨拶の一部を中国語で行い、大坪先生は、短歌によるお祝いを披露なさり、これが中国語に訳され、大かっさいでした。そのうち全員での昼食会、言葉が通じないにもかかわらず十分に味わいました。

滞在中、中日友好病院見学、中医药大学を訪問し、かねてから興味のある気功研究所を訪ねました。李曉明教授はイタリアのボローニヤ大学でも教えておられて、ヨーロッパでは有名な方だそうですが、その李先生にいろいろ質問したり、診察もしていただきました。また老人ホームも見学、一部の特権階級だけと思えますが、個室でなかなか快適そうにできていて南面を習ったり、書を練習したり、ペランダでいろいろ草花を育てている人々たちを見受けました。最高齢一〇五歳の女性も実にかくしやくとしていて、帰るとき見送ってくれました。

最後の半日は天津市を訪ねました。僅か二時間半のドライブ、ハイウェイは私たちの車だけで、両側のポプラ

並木、アカシア、サルズベリのピンクの花が美しく、あたりは一面ともろこし畑でした。市街地に入るとやっと車も多くなり、生活が感じられ、人々は皆、きれいにしており、自転車が行り廻っていました。印象的だったのは、グリーンベルトの美しい色とりどりのばらの花でした。よく手入れされた緑地帯はいろ鮮やかな輝くようなバラ、バラ、バラでした、ばら園にでも行ったような心地でした。

北京も天津も変りました。とくに北京は9月の世界女性会議を迎える準備もあってか、建築と道路工事のラッシュでした。左右六車線の両側にはどこまでも勤労者用のアパート群が立ち並び、いちだんと目立つのは高層のホテルと飯店です。これが中国とは思えないほど近代的で、きれいな街並でした。街の中心部に行くとやっと道路端で西瓜を売っているのを見かけ、求めましたが、頭が大ききもあるのがたった十八元(日本円で百八十円)でした。

世界女性会議NGOフォーラム会場となる懷柔県を見たいと申し入れましたが、まだ問題が残っていると

かで行くことはできませんでした。いずれにしても三泊四日の旅では人口一二億をかかえる中国、子どもたちの姿や声を聞くこともなかった中国、医師数は約百万人、女医の割合52%、官吏、医師いずれも月給一カ月五百〜六百元(日本円で換算するとその十倍)、タクシードライバー

の方か収入が多いとか、週休五日制、何の不自然も感じさせない徹底した男女平等、ほんの垣間を見てきたにすぎません。老人人口は一億人10%と聞いていますが、そして一人子政策の結果、わがままっ子(宝子)ばかり作り、老人問題が深刻になるのも近いことだろうと案じているよ

うです。都市形態の近代化はもとよりですが、自由経済の導入も見られ、人々の考え、とくに若者の心理は大きく変わってきているようです。中国は依然として未知な国としてあり続けるでしょう。

### 中国女医師協会成立大会に参加して

理事 大坪公子

日本から山崎倫子名誉会長と私が友人の立場で中国女医師協会成立大会に参加しました。「天の半分は女子が支えている」と毛澤東がいったそう、中国は男女平等を強力に押し進めており、女医は全医師の52%を占めています。

一九九五年7月6日午前十時より会議は開かれ、山崎倫子名誉会長も

ふくめ主だった十一名の人たちが壇上に並んで座りました。前日の会で決定した理事約百五十名、常任理事約五十名の名前が読み上げられました。中国は広いので役員の数も多いと思いましたが、林佳楣会長は小児科医とのことで、とてもやさしい印象の先生です。世界に向って伸びてゆこうと挨拶されました。次にお祝いの題詞が披露されました。国の重要人物の直筆の詩やお祝いの言葉が示

され、江澤民主席のものもあり興味深いものでした。次に名誉会長になられた何界生衛生部副部長が挨拶されました。社会主義の国ですからこの女医師協会は民営であっても政府指導の会であることに間違いはありません。教授以上のクラスの人で、各地域の保健行政でトップにいる女医さんたちが理事に選ばれ、この会に出席しているようでした。

来賓として、山崎倫子名誉会長が中国語で初めの部分の話され、その後日本語で話し通訳が中国語に訳されました。最後の部分も直接中国語で話され、さすがに立派な祝辞でした。皆さんとても喜び、かつ驚いていました。私もお祝いの短歌を五首披露させていただきました。その中の一首は、「女医こそは十二億の民の母となり病を癒す紅牡丹花」という図

このたびは、荻野吟子賞を頂き大変光栄に存じます。大学を卒業して十五年、恩師、先輩、職場の仲間すべてに恵まれ、自分の好きな仕事だけを続けて、このような賞をいただいたことにたいへん恐縮いたしております。

大学を卒業し、一般小児科での研修を終えた後、新生児医療に十年間携わり、一九九一年からは国立国際医療センター国際医療協力局派遣課員として、途上国での医療協力をさせて頂くようになってから三年間が過ぎました。この間、ポリビア、パングラデシュでの技術協力、メキシコ、インド、フィジー、フィリピンでの調査等に関わらせて頂き、行く国々で多くのことを学ばせて頂きました。現在はカンボジア母子保健プロジェクトのチームリーダーとして途上国で生まれた新生児が一歳の誕生日を迎えられる確率は、日本で生まれた新生児の五〇分の一しかありません。生まれる国を選ぶことができない赤ちゃんたちにとって、途上国で出生することは、もうそれだけで病气や死との日常的な戦いの人

生を歩むことになりました。日本の新生児室で仕事をしていたときには、小さな未熟児たちの生きる力に驚き、励まされることがたびたびでしたが、今、途上国の赤ちゃんたちを見てみると、やはり彼らの力強さを感じます。それは精一杯、生き抜こうとするポジティブな生命として彼らが私たちの前に存在するからだと思います。残念ながら多くの途上国では未だに赤ちゃんたちの生きる権利は必ずしも十分、守られているわけではなくありません。多くの困難、不平等があるこの地球で、赤ちゃん一人一人が人間としての尊厳を守られる世界になったとき、初めて人類は本当に平和で民主的な世界を達成したことになるのではないかと考えています。赤ちゃんたちに対して、少しでも責任が果たせるよう、今の仕事を続けてゆきたいと思っています。

途上国におりますと日本の先生方からの励ましが何よりも有難く感じられます。受賞の推薦をいただいた中山先生、我妻先生に心から感謝いたしますとともに、日本女医学会の諸先生方の今後ますますのご発展をお祈りいたします。

### 荻野吟子賞を頂いて

新宿支部 山田多佳子

このたびは、荻野吟子賞を頂き大変光栄に存じます。大学を卒業して十五年、恩師、先輩、職場の仲間すべてに恵まれ、自分の好きな仕事だけを続けて、このような賞をいただいたことにたいへん恐縮いたしております。

大学を卒業し、一般小児科での研修を終えた後、新生児医療に十年間携わり、一九九一年からは国立国際医療センター国際医療協力局派遣課員として、途上国での医療協力をさせて頂くようになってから三年間が過ぎました。この間、ポリビア、パングラデシュでの技術協力、メキシコ、インド、フィジー、フィリピンでの調査等に関わらせて頂き、行く国々で多くのことを学ばせて頂きました。現在はカンボジア母子保健プロジェクトのチームリーダーとして途上国で生まれた新生児が一歳の誕生日を迎えられる確率は、日本で生まれた新生児の五〇分の一しかありません。生まれる国を選ぶことができない赤ちゃんたちにとって、途上国で出生することは、もうそれだけで病气や死との日常的な戦いの人

生を歩むことになりました。日本の新生児室で仕事をしていたときには、小さな未熟児たちの生きる力に驚き、励まされることがたびたびでしたが、今、途上国の赤ちゃんたちを見てみると、やはり彼らの力強さを感じます。それは精一杯、生き抜こうとするポジティブな生命として彼らが私たちの前に存在するからだと思います。残念ながら多くの途上国では未だに赤ちゃんたちの生きる権利は必ずしも十分、守られているわけではなくありません。多くの困難、不平等があるこの地球で、赤ちゃん一人一人が人間としての尊厳を守られる世界になったとき、初めて人類は本当に平和で民主的な世界を達成したことになるのではないかと考えています。赤ちゃんたちに対して、少しでも責任が果たせるよう、今の仕事を続けてゆきたいと思っています。

途上国におりますと日本の先生方からの励ましが何よりも有難く感じられます。受賞の推薦をいただいた中山先生、我妻先生に心から感謝いたしますとともに、日本女医学会の諸先生方の今後ますますのご発展をお祈りいたします。

もので通訳が中国語に訳してくれ  
ました。  
結局外国からの参加者は私たち二  
名だけでした。祝電やメッセージが  
読み上げられ、昼十二時に会は終了  
しました。

### 〈學術講演会抄録〉 日常診療にみられる不整脈の診断と治療の進歩

東京女子医大附属日本心臓血管研究所  
循環器内科 笠貫 宏

近年、不整脈の診断と治療の進歩  
は著しい。ホルター心電図の普及に  
より、不整脈の発見される機会は飛  
躍的に増大した。そのほとんどは放  
置してよいものであるが、直ちに処  
置しなければ致命的になりうるもの  
が含まれる。したがって、不整脈の  
正確な診断にもとづく的確な治療が  
要求される。

本稿では、そのために必要な知識  
について頻脈性不整脈を中心に概説  
を加える。

1 不整脈の種類を認識する  
不整脈とは正常洞調律(洞結節か  
ら毎分60〜100回の刺激が生成  
され、特殊刺激伝導系を正常に伝播  
する)以外のすべての調律である。  
頻脈性不整脈(心房期外収縮、心房  
頻拍、上室性頻拍、心房細動、心室  
期外収縮、心室頻拍、心室細動など)  
と徐脈性不整脈(洞不全症候群、房

前日の7月5日夜は、人民大会堂  
で大祝宴が行われ、広い中国各地か  
ら集まった女医さんたちと親しくな  
ることができました。  
中国女医師協会はまだ成立したば  
かりで、国際女医学会に正式に加入出

室ブロック、心室内伝導障害など)  
に大別される。  
2 不整脈診断の解析手順を修得  
する  
心電図から得られる情報はP-P間  
隔、RR間隔、P-Q時間、Q-T時間、  
P波形、QRS波などである。解析  
手順としては、たとえば、RR間隔  
は規則正しいか? P-P間隔は? P-Q  
時間? P波形? P-Q波は? Q-R-S  
波形は? という思考過程で行う。

3 不整脈の重症度評価を行う  
心電図所見のみならず、症状、基  
礎心疾患、心機能、運動に対する反  
応、薬物に対する反応などによる総  
合判断が必要である。

4 不整脈治療について理解する  
頻脈性不整脈に対する第一選択は  
抗不整脈薬である。さらに手術、ベ  
ースマーカー、カテーテルアブレ  
ション、植込み型除細動器などの非

薬物療法の進歩が著しい。  
①生活指導・不整脈の増悪、誘発  
因子となる精神的ストレス、肉体的  
ストレス、過労、飲酒、タバコ、カ  
フェインなどをさけるようにライフ  
スタイルを改善させることが最も重  
要である。  
②抗不整脈薬・多くの抗不整脈薬  
が開発され、その電気生理学的特性  
による Vaughan Williams 分類 (Na  
チャンネルを抑制するI群、β遮断  
剤であるII群、Kチャンネルを抑制  
作用を有するIII群、Kチャンネルを  
抑制するIV群)が広く用いられる。  
強力な抗不整脈作用を有する反面、  
副作用とくに催不整脈作用(不整脈  
の増悪・誘発)と陰性変力作用(心  
収縮力抑制)が問題となっている。  
したがって、不整脈の発生機序、薬  
剤の作用機序、薬物動態学および薬  
力学を理解した上でもとづき有効か  
つ安全な投与計画をたて、ホルター  
心電図や電気生理学的検査による客  
観的な薬効評価を行うことが必要で  
ある。最近、II群薬とアミオダロン  
(III群薬)の突然死予防効果が注目  
されている。  
③手術・WPW症候群や心室頻拍  
などに対して手術が行われる。最近

来るにはまだ時間がかかるかも知  
れません。力づよい会の成立をみて、  
中国女医師協会の発展と広い国土の  
各地で活躍している中国女医の幸せ  
を祈らずにはおられませんでした。

心室頻拍ペースメーカー・リエ  
ン トリーによる上室性頻拍や心房粗動  
を自動的に感知し、ペーシングによ  
り停止させるものであり、特に徐脈  
頻脈症候群に有用である。  
⑥植込み型除細動器・心室細動や  
心室頻拍を自動的に感知し、電気的

除細動が作動するもので、致命的不  
整脈に対する突然死予防効果は非常  
に高く、現在では経静脈リードシス  
テムが開発され、今後その適応は拡  
大していくと考えられる。わが国で  
は本年、認可され、近く発売される  
予定である。

おわりに  
頻脈性不整脈に対する治療の進歩  
にともない、個々の症例において最  
も適切な治療法を選択することが求  
められる。したがって、専門医への  
紹介、患者への説明と同意(Informed  
consent)が大切になると思われる。

一九九六年3月20日〜23日までニ  
ュージージーランドのオークランドで第  
6回西太平洋地域会議が行われるこ  
とになっておりますが、私(橋本)が  
国際女医学会副会長としてこの会議を  
主催することになりましたので、遅  
ればせながらその打ち合わせに大学

### ニュージージーランド女医学会を訪問して

常任理事 橋本 葉子

せんので、組織委員会は大学の部屋  
をお借りして行っているとのことだ  
した。諸外国とのすべての連絡は、  
Dr. Maxwell が自宅の一室にある  
タイプライターで行われております。  
ニュージージーランドの医学部は北島に  
オークランド大学医学部(一九六六  
年開校?)、南島にダニエインの医学  
部の二校しかなくダニエイン医学部  
の方が歴史は古いそうです。各医学  
部一学年一〇〇人の学生数です。現  
ニュージージーランド女医学会会長は一九  
六八年にオークランド大学医学部に  
入学されたそうです。

とは分かっておりましたが、やはり  
会議の前に一度ニュージージーランド女  
医学会の皆様にお会いしておく方が良  
いのではないかと考え、行ってまい  
りました。

ニュージージーランド女医学会の会長は  
Dr. Margaret Ramsley, National  
coordinator、Dr. Margaret D. Ma  
xwell, オークランド支部長は、Dr.  
Niva Thakurds という方で、そ  
の他のニュージージーランド女医学会員十  
六人が8月20日の昼食会にお集まり  
くださいました(写真1)。8月21日  
にはDr. MaxwellとDr. Watt(京都

の会議のときニュージージーランド女医  
会長の代役として参加された方)と  
会議の進行や会議室などの打ち合わ  
せを行い、8月24日には組織委員会  
がオークランド大学で行われ、準備  
状況やこれからのスケジュールなど  
討論してまいりました。西太平洋地  
域会議を一九九六年にニュージージー  
ランドで行うことにしたのは、ニュー  
ジージーランドで最初に正式な女性医師  
として認められたのがDr. Emily  
Siedeberg という方で、一九九六年  
はそれから一〇〇年目に当たるのだ  
そうです。その記念に第6回西太平

洋地域会議ではOpening Lectureと  
して"Emily Siedeberg Memorial  
Lecture"を行う予定になっており  
ます。前回の日本女医学会誌でもお知  
らせましたように、会議のスケジ  
ュールはほぼ決まっておりますが、  
会議の登録費などを含めた登録用書  
類やプログラム等は11月末頃になる  
予定だそうです。  
ニュージージーランド女医学会は約二  
百六十人、半数以上は北島に居られ  
るそうです。ニュージージーランド女医  
会には事務所もなく事務員もおりま

せんので、組織委員会は大学の部屋  
をお借りして行っているとのことだ  
した。諸外国とのすべての連絡は、  
Dr. Maxwell が自宅の一室にある  
タイプライターで行われております。  
ニュージージーランドの医学部は北島に  
オークランド大学医学部(一九六六  
年開校?)、南島にダニエインの医学  
部の二校しかなくダニエイン医学部  
の方が歴史は古いそうです。各医学  
部一学年一〇〇人の学生数です。現  
ニュージージーランド女医学会会長は一九  
六八年にオークランド大学医学部に  
入学されたそうです。

ニュージージーランドの総人口は約三  
五〇万人、そのうち一〇〇万人がオ  
ークランドに住んでおります。オ  
ークランドは太平洋とタスマン海に挟  
まれた火山性地帯の上に築かれた都  
市で、汚れない自然が都心からこ  
く近い場所にあります。一千年以上  
前にマオリの移住者がここに住みま  
したが(写真2)、一八四〇年には大  
英帝国の一部になり、一八六五年ま  
でニュージージーランドの首都でした。  
(現在の首都はウェリントンです。)  
何千年も前、火山活動が激しかった  
ときにできた六十以上の火山のコー  
ンやクレターの上に築かれていま  
す。これらのコーンやクレターは  
公園になっていて羊などが放し飼  
いになっております。町の真ん中の  
公園でも沢山の羊が見られるのには  
驚きました。とにかくヒトが少なく、  
自然が多く、清潔で、平穏で、安全  
な都会がオークランドでした(写真  
3)。

日本女医学会員の約十分の一の会員  
で西太平洋地域会議を成功させるべ  
くがんばっておられます。成功の第  
一の鍵は、日本からできるだけ多く  
さんの方に参加していただくことだ  
とニュージージーランド女医学会の皆さま  
が希望しておられます。皆さま、ご  
協力のほどよろしくお願い申し上げます。



(写真1)



(写真2)



(写真3)

# 私の大学「千葉大学医学部」

千葉支部 安藤道子

私の卒業した千葉大学医学部は、千葉駅からバスに十分ほどゆられた小高い丘の上にある。市の中心部から僅かに離れているだけで周囲は緑と住宅地に囲まれ、静かな環境を呈している。千葉市は近年政令指定都市となり幕張メッセやマリンスタジアムに代表されるような湾岸エリアの開発が目覚ましくその変貌ぶりは著しいが、大学周辺はとり残されているかの様に私の入学した十年前とほとんど同じ街並をとめている。

医学部のある一画は大病院、医学部校舎、看護学部、関連施設からなる。私たちは大抵校舎と病院の往復で用が足りたが、この二つの建物は歩いて五分ほど離れており両者を結ぶ道の両脇には道から見下ろす位置にすり鉢状にテニスコート、野球場、サッカー等のグラウンドが控えている。大病院は近代的な長細い建築物で、私たちは臨床講義、病院実習、医局員としてお世話になったが、懐かしくそして歴史を感じさせるのは、かつての病院であったという現在の校舎の医学部本館である。昔ながらの石造りの重々しい外観で、高い天井とステンドグラスの嵌め込



さて、千葉大学の歴史は古く、創立は明治7年(一八七四)に遡る。当時、衛生医事に関心の深い千葉町、寒川村、登戸村等の有志により、千葉町に公立病院が設立されたのが、そもそもの始まりである。

その後明治9年(一八七六)に公立に移管し、公立千葉病院になり、同時に院内に医学教場が付設され、医学教育へ第一歩をふみだした。

明治15年(一八八二)にさらに県立千葉医学校及び附属病院となり、医学教育の場としてますます本格的な活動に入った。

明治20年(一八八七)に第一高等学校校医学部、千葉医学専門学校と変遷を経て、大正12年(一九二三)にはさらに千葉医科大学に昇格した。

# 支部だより

## 第39回青森支部総会を開催して

青森支部 黒田迪子

このたび、青森支部長の前田慶子先生からご指示がありましたので報告させていただきます。

青森支部総会は、年一回、会場を弘前、青森、八戸の順に持ち廻りで行われていきます。

今回は6月11日八戸で開かれましたが、本当に思いがけなく、日本女医会会長佐藤千代子先生と、副会長白浜光子先生をお迎えしての第三十九回青森支部総会となりました。

昨年の12月28日の三陸はるか沖地震へのお見舞いにおいでになられると聞いて会員一同恐縮してしまいました。地震の被害は、直後はもちろんですが、日が経つにつれてその大きさに驚かされます。八戸でも、いまだにいたる所で災害復旧工事が行われている現状ですが、阪神大震災のあの惨状をみますとその比ではなく、

遠路、八戸までおいでくださるという事は申し訳ない気持ちでした。

会長、副会長のお二人の先生方は総会前日八戸に到着され、青森支部長の前田慶子先生をはじめ八戸の女医会の先生方と一緒に夕食を共にされました。なごやかな雰囲気の中にも地震の話は尽きなく、ふっと気が付いたときは夜十時少し前でした。

総会当日、今回は、佐藤先生、白浜先生の時間の都合上、先生方のお話で始まり、会食に入り、その後、従来通り総会を、というプログラムを組みました。

先生方が日本女医会の現状などについてお話をされた後、「日本女医会は財政が苦しいので僅かですが、何かに役立てて下さい」と三陸はるか沖地震へのお見舞金を差し出されました。お見舞金について全然考え



ていなかったもので、このまま受け取っていいのかもしれないが、いらないのでお返ししました。その後、フランス料理をいただきながら、女医のあり方、将来の立場などについて和気あいあいとは話はずみでした。しかし時間もおしまひ、残念でしたが、両先生は会員の拍手の中、ご退席され、八戸をあとになさいました。その後、従来通り、議事に入り、さらに去る5月にオランダでの国際女医会議に出席された石橋先生、金田先生のお話を聞きながら、撮影されたスライドを楽しみ、会は無事終了しました。先生方にお会いすると、医療面は当然ながら、多方面にわたって活躍されておられる姿に接することができ、自分も明日からがんば

## 神奈川支部総会を開催して

神奈川支部 森田和子

この夏の史上未曾有の連日猛暑もやっとなおさず、花屋の店先に並ぶコスモスや薄葉を見ては秋の気配を感じるところでございます。

このたび支部便りとして一筆ご報告申し上げます。来年で三十周年を迎える当支部は現在会員数百四十八名、年二回の総会を開催しております。

今回は去る7月29日(日) ホテルリッチ(横浜駅西口)にて午後二時より行われました。物故者への黙禱から始まり、庶務及び会計報告、中演副会長、稲生理事より、5月に参加しました第23回国際女医会議(於オランダ)と埼玉県大宮市で開催された第40回日本女医会定時総会の報告がございました。総会議事などの後は学術講演で、今回は当支部会員の

八戸女医会の会員一同と相談の上、医療面への意義あることに使わせていただきます。

日本女医会に感謝いたしますとともに、ますますのご発展を祈ります。そして今後ともよろしくお願い申し上げます。

中山圭美先生(東海大卒、現在横浜市大法医学教室の研修員)の講演を「浴室内死亡の検案事例の検討」という演題で、興味深く伺うことができました。高齢者や看病者にとってことに浴槽内で与えられる条件がいかにリスクの大きいことか、お風呂好きの日本人にとっては、示唆のあるお話と受けとめました。残念ながらこのような貴重な講演会を企画しても、つねに参加者が総会員の二割前後という状況はなほ遺憾に存じます。

続いて懇親会に移り、年長の永田先生(八十三歳)の乾杯の音頭に始まり、楽しいおしゃべりの中、自己紹介も和気あいあいといつしかお開きの時間となりました。

さて、世界の半分を占める女性が

## お知らせ 日本女医史 追補出版!!

先輩、福田幹編集の日本女医史に近年の年表を追補いたしました。

本文の前半は女医公許以前の傑出した女性が医学を志し、困難を堂々と乗りこえ、目的に邁進するお一人お一人の生活が、リアルにかかれております。後半には公許女医一号の荻野吟子および吉岡弥生をはじめ大勢の先進が、「日本の女医皆力を結集すべし」との声をあげ、今日をつくり上げる努力が記録されていますが、さすがにささげ感を感じさせられます。

年表は平成三年前半までを追補し、目ざましいまでの女医の活躍を年次的に記載いたしました。どうぞ女医の今昔を、日本唯一の女医の歴史をぜひ一読のほどおすすめいたします。

**日本女医史(追補)**  
定価 二、八〇〇円(税込)  
平成三年四月 発行  
編集者 日本女医史編集委員会  
発行者 日本女医会  
A5判・三二〇ページ

●ご希望の方は、日本女医会(振替口座番号 東京二一九九六八)へ代金二、八〇〇円をお送りください。

日本女医史編集委員会



結束して、地位向上を目指そうと東京で開かれた国連世界女性会議のニュースを見るにつけ、大いに発奮しようという気持ちに駆られました。

当支部としては会員増加の一助として、古典研究会、英会話の集い、またEKGの判読会(講師を招いて)など試みて、多くの人が参加しやすい雰囲気作りを心がけているつもりですが、ままならぬ状態に私自身も反省し、苦慮しております。ことに若い先生方に魅力ある女医会にしてゆくため、改善すべき点など柔軟な姿勢で対応してゆきたいと考えております。そして三十周年を迎えようと思ひます。諸先輩方のご指導を賜われれば幸と存じます。

理事会議事録

日時：平成7年6月24日(出)

午後1時00分

場所：あいれふ、第2研修室 (福岡)

出席者：佐藤、白浜、中濱、野澤、青井、石原、稲生、栗原、佐々木、橋川、橋本、平敷、丸茂、大坪、加藤、川田、鹿田、清水、久田、松本、宮原、村田、吉崎 (以上23名)  
欠席者：佐野、野本、松井、大澤、佐伯、田中、西嶋、山本、南雲、野呂、藤岡 (以上11名)

4月理事会の議事録を承認。

議事検討事項

- 一、庶務報告 久田理事  
別紙どおり報告、承認される。  
二、会計報告 川田理事  
平成7年4、5月分収支別紙どおり報告、承認される。  
三、各部報告

【事業部】

- 丸茂常任理事  
・女医会年金について  
公定歩合が下がっているが女医会年金は高利率のままなので、22日(木)今後の女医会年金について銀行との話し合いをもった。安田信託銀行に元本保証、給付額減額の計算を依頼する。  
・ガン保険とスーパー介護年金の加入依頼。  
・「いきいき」へ執筆依頼。

【広報部】

- 稲生常任理事  
・6月13日に第一四三号会誌割付会議を開催。

【学術部】

- 橋本常任理事  
・向井千秋氏を予定していた研修講演会の開催は不可能となる。  
・11月25日(土)にミニシンポジウムと唄孝一先生を講師に研修講演会を開催。

東女学内支部澤口彰子先生より、来年国際法血液遺伝学会箱根シンポジウムが開催されるにあたり日本女医会に後援依頼の要請があったとの報告があり、全員賛成で後援する事に決定。

【会長報告】

・6月10日青森県支部総会出席の報告。

・7月6、7日中国女医会の発会式に山崎名誉会長と大坪理事が代表として出席予定。

四、公開講演会について

・10月15日(日)、福島県郡山で佐藤会長、吉永陽子先生(神奈川県支部)を講師に開催。

五、エイズ小冊子について

・残部約三、〇〇〇部について、各理事がある程度の部数を責任持って販売してはどうかとの意見があったが継続審議。

六、平成8年度第41回定時総会について  
平成8年5月25日(出)、福岡市シ

ーホークで開催。

七、医療奉仕への助成について

・女子医大より今年も要請があったが、他の団体からも広く募集することに決定。

八、定款改正に関する厚生省の指導

について(別紙参照)

・厚生省からの指導案のうち1と4はこちらと見解の相違があるので、よく検討し、もう一度厚生省に出向き話し合うことに決定。

九、その他――年金について(事業

部報告と重なる)  
①年金手数料については今までの12分の1より20分の1にする。

②年金給付利率については公定歩合も下がっているので安田信託銀行に利率を下げた給付額の計

算を依頼中。

③ガン保険、介護保険そして女医会年金への勧誘をもう一度全理事に依頼。  
副会長(庶務部担当) 白浜  
石原、橋川  
鹿田、久田、村田

会員動静

新卒入会(敬称略)

東女学内支部 佐々木香織、永井慶子、古田幸代、水谷扶美

静岡支部 青島明子

入会会員(敬称略)

埼玉支部 田村綾子  
板橋支部 能美伸子  
葛飾支部 長主真理、西川律子

東女学内支部 井上葉子、岩崎直子、大河原久子、河原玲子、矢口有乃

都下西支部 池上真由美

愛知支部 鈴木よし子

大阪第9支部 吉馴茂子

福岡支部 疋田照子

復会(敬称略)

群馬支部 真中はるえ

退会者 六二名

物故者(敬称略)

神奈川支部 朝倉みどり  
葛飾支部 山口三重  
世田谷支部 北川艶  
愛知支部 鈴木美枝子  
高知支部 高橋純

集記 編後

猛暑が去り、あわただしく大型台風も来て、いつの間にか「物のあわれ」を知る秋が来た。月は天空に輝き、吹く風も心地良く金木犀の香まで運んでくる。自然は人の心を癒し人生を味わい深く豊かなものにしてくれる。いつまでも美しい地球であってほしい。

私たちはより良い医療サービスを提供して社会に貢献している。女医こそは母親の気持で病む人に接し人々に幸をもたらすものと思う。女医というハイスティータスに満足することなく、奉仕の精神を持ち医療に取り組んでゆきたい。降り注ぐ秋の陽射しの中で、一人暮らしの老女を見舞い、女医の仕事ができる喜びを感じた。与えられた役割を豊かな柔らかな気持ちではたしてゆきたい。(大坪)

平成7年10月20日 印刷  
平成7年10月25日 発行  
編集人 稲生 襄  
発行人 日本女医会  
発行所 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル  
社団法人 日本女医会  
☎三四九八一〇五七  
FAX三四九八一八七六九  
制作 東京都文京区水道1-5-16  
株式会社 金剛出版